

こばやし のぶちか 小林 信近 (1842~1918)



県政界・経済界の先覚者。松山城下(現、松山市)出身。12歳のときに小林家の養子となり、万延元(1860)年、松山藩主・松平勝成に小姓として仕え、明治維新までの動乱期は、藩主に従って松山、江戸、京都と国事に奔走した。

維新後、廃藩置県により職を失った藩士のため、旧藩主・久松家の囑託で製紙、製靴、小倉織を扱う工業会社・牛行舎を設立して事業に取り組み、それらの経験から松山での鉄道敷設を考えるようになった。しかし、鉄道建設は莫大な費用がかかるため、当時、地方都市での鉄道経営は不可能だとされていたが、軌間762mmの軽便鉄道なら実現可能だと判断し、その熱意とねばり強さで政府の許可を取得した。明治20(1887)年、伊予鉄道会社を設立して初代社長となり、翌年、三津-松山間で、軽便鉄道を開通させた。

また、鉄道以外にも伊予銀行の前身である第五十二国立銀行の設立や四国初の水力発電所、高浜港建設など、愛媛県の経済を支える多くの事業を展開した。

略歴

天保13(1842)年8月28日	松山藩士の家に生まれる。
嘉永6(1853)年9月	松山藩士・小林家の養子となる。
万延元(1860)年1月28日	小姓として藩へ仕え始める。
明治6(1873)年9月	一番町で陶器製造業を始める。
明治9(1876)年7月	旧藩主・久松家の囑託で、士族授産のため、製紙・製靴・小倉織を扱う工業会社牛行舎を設立し、社長となる。
明治10(1877)年2月	松山米商会を設立
明治11(1878)年9月14日	第五十二国立銀行(現、伊予銀行)を設立、頭取となる。
明治15(1882)年5月3日	松山商法会議所設立、頭取となる。
明治16(1883)年2月	海南新聞社(現、愛媛新聞社)の社長となる。
明治19(1886)年9月	高浜港築港を発起
明治20(1887)年9月14日	伊予鉄道会社を設立、社長となる。
明治21(1888)年10月28日	伊予鉄道会社、三津-松山間で営業開始
明治25(1892)年2月	第2回衆議院議員総選挙に当選
9月	高浜棧橋会社を設立、頭取となる。
明治34(1901)年12月	伊予水力電気株式会社を設立、専務取締役となる。
明治36(1903)年	伊予製紙株式合資会社を設立、代表社員となる。
明治40(1907)年	伊予電力織布株式会社を設立、社長となる。
大正7(1918)年9月24日	77歳で永眠。墓所は松山市祝谷東町の常信寺

(肖像画：伊予鉄道株式会社蔵)

〈関連図書〉

- ・小林信一編『小林信近手記』 小林信一 1966年
- ・小林信近『小林信近創設五事業苦心記』 小林信一 1966年
- ・北川淳一郎『小林信近』 北川淳一郎 1968年
- ・伊豫銀行総合企画部『伊豫銀行史』 伊豫銀行 1971年
- ・伊予鉄道株式会社編『伊予鉄道百年史』 伊予鉄道株式会社 1987年
- ・『発掘えひめ人-近代を拓いた101人-』 愛媛新聞社 2002年

〈ゆかりのある場所〉…(P280, 67~68)